

調査団体名	三河淡水生物ネットワーク		団体代表者名	鳥居亮一 (調査対応)鳥居亮一 浅香智也	
設立年	2008年		団体URL	http://www.giocities.jp/fw_life/	
活動地域	三河地域(西三河・東三河)		会員数	10名程度	
取材日	2009.9.27	レポート作成者	近藤朗	調査員	近藤朗、岩本麻未
<p>&lt;現在どんな活動をしているか&gt;</p> <p>2007年、魚類自然史研究会など通じ4人の仲間、鳥居亮一、浅香智也、地村佳純、藤田宏之(埼玉川の博物館)から始まった。正式には2008年より、矢部隆(愛知学泉大学:カメ)、内田臣一(愛知工業大学:水生生物)、川瀬基弘(愛知みずほ大学)、阿部夏丸(矢作川水族館)、池竹氏などが加わりスタートした。</p> <p>河川での生物等情報の共有を図り、本来の河川等水辺環境保全へと繋げることを意識している。</p> <p>現在の活動としては、豊川を中心とする浅香氏、矢作川流域を中心とする鳥居氏などが定期的に魚類等生物調査を行っている。定期的に情報共有の場を設け、今後の展開手法など模索していく。</p>					
<p>&lt;会のモットー(何を大切にしているか)&gt;</p> <p>河川における情報の共有。それぞれが専門分野を持ちお互いの不得意な部分をカバーしながら活動を進めていく。</p>					
<p>&lt;設立から現在に至るまでに変化したこと&gt;</p> <p>スタートしたばかりで、今後どうするのか?</p>					
<p>&lt;連携している団体・専門家・自治体など&gt;</p> <p>それぞれが専門、あるいは施設などに関わっており独自のネットワーク、繋がりを有している。</p>					
<p>&lt;今までに行った調査・研究&gt;</p> <p>浅香氏は、東三河の陸水フィールドで頻りに魚類等生物調査を16年間続けている。</p> <p>鳥居氏は、西三河全域(矢作川、高浜川、幡豆の小河川など)で6年間調査を続けている。</p>					
<p>&lt;現在直面している課題&gt;</p> <p>フィールド調査をしていれば外来種の問題に直面する。音羽川などでは、コイ、ホタルの放流や植生の花壇化など市民活動として行われている。正しい情報を伝えるべきだと考えている。善意で行われているこのことを市民に伝えるのは難しい作業であることを痛感する。</p>					
<p>&lt;今後やってみたいこと&gt;</p> <p>正しく繋がるネットワークを模索したい。(繋ぐ役割としてのネットワーク)</p>					
<p>&lt;そのためにはどんな情報・人脈が必要か&gt;</p> <p>カバーしあえる様々な分野の人材。誰でもいいというわけではない。</p>					
<p>&lt;カウントダウン2010に一緒に取り組みませんか?&gt;</p> <p>カタログを渡し主旨を説明する</p> <p>11月21日の三河淡水生物ネットワーク例会で説明して理解を求める予定。</p>					
<p>&lt;チームオリジナルの質問&gt;</p>					
質問内容:	ネットワークが機能するために各セクターは何をすべきだろうか?				
答え:	<input type="checkbox"/> 行政は担当者への引継ぎをきちんとしてほしい。形だけでなく、中身の話をしたい。 <input type="checkbox"/> 行政は言ったことの責任をきちんととってほしい。 <input type="checkbox"/> 市民は、もっと生物に興味を持って欲しい。そして中身をきちんと考えて欲しい。 <input type="checkbox"/> 市民はもっと環境に触れ楽しんでほしい。 <input type="checkbox"/> 行政と市民の交流の場が必要である				

<その他、伝えたいこと>



2009年9月27日音羽川探訪会  
愛知・川の会、音羽川の会、三河淡水生物ネットワーク鳥居氏・浅香氏